

装備リスト 秋

ヤマナスカのツアーで訪れる主なエリアの気温

ホワイトホース 8月中旬～9月初旬 平均最低気温 5度程度、平均最高気温 15度程度
 9月中旬～9月下旬 平均最低気温 0度程度、平均最高気温 10度程度

ご参加になるツアーによって装備表が異なります。
 ご自身の該当するツアーの装備をご参照ください。

★アウトドアで行うツアーは、雨、雪などの天候でも安全が確保できる状況とガイドが判断した場合は、決行致します。雨、風、低温などでも対応できる装備をご用意ください。

<ネイチャー・ウォーク> 以下 NTW
 <ミート・ザ・ワイルド>、以下 MTW
 <ディスカバー・ホワイトホース> 以下 DWH
 持ち物リスト

装備表	
持ち物	備考
必須品	
ハイキング・ブーツ/ スニーカー	NTWでは、できる限りハイカットのハイキングブーツをご用意ください。スニーカーなどでもご参加可能ですが、状況により濡れたり致します。
ザック (バックパック)	NTW、MTWではご持参ください。20-30リッターのものををご用意ください。 DWHではショルダーバックなど (水筒、小物を収納できる程度のもので可能です)
靴下	NTW、MTWでは、ウールのものをご用意ください。
ハイキング用パンツ	行動しやすいアウトドアズボン、(綿製品はおススメしておりません) DWHでは通常のズボンでもご参加いただけます。
肌着 (上)	化繊製品など、吸水速乾性のものが理想です。 (特に NTW、MTW)
長袖シャツ	保温性があり、吸水速乾性がある化繊・ウールのものが理想的。

ダウン、フリース・ジャケット	薄手のダウン、厚手のフリースなど天候によって必要になります。
レイン・ウェア（上・下）	ゴアテックス製などの防水透湿性のものが、理想的。上着だけでも何かご持参ください。下がない場合は、簡易的で安価なビニール製の雨具だけでもご持参ください。 DWHでは、傘でも代用可能。
帽子日よけ系	日よけ用につばがあるもの。野球帽など
ニット帽子	耳まで隠れ、保温性に優れるもの。
手袋	防寒に必要になります。薄手から中厚程度のもの。（薄・中厚を2つご持参もお勧めです。）
サングラス	紫外線（UV）から目を保護します。こちらは日本よりも紫外線が強いです。
水筒（およびテルモス）	NWK は1リットル程度 MTW、DWHは、500ml程度 ご用意ください。
ネックウォーマー / マフラー	首周りの保温はとても大切です。
あると重宝するもの（必須ではない）	
ザックカバー	お持ちの方は、是非ご持参ください。 DWHでは必要なし。
傘	雨具上下があれば、ほとんどの場合しのげますが、お好みでご持参ください。
肌着（下）	寒がりの方は、ご持参されると重宝します。
ハイキング・ポール（ストック）	NWKでは特に重宝します。お好みでご持参ください。 MTW、DWHでは必要ありません。
日焼け止めクリーム	こちらはUVが強くなります。
スパッツ	利用する可能性は低いですが、ズボンの汚れなど心配な方はご持参ください。（NWKのみ該当）
ポケットナイフ	必要な方はご持参ください。

**<ワンナイト・オーロラ> 秋
 持ち物リスト**

装備表	
持ち物	備考
必須品	
暖かいズボン	夏用ではなく、少し生地の方厚めのズボン（暖パンツなど理想的）。
ニット帽子	耳まで隠れ、保温性に優れるもの。
ダウンジャケット	中厚程度ものが重宝するでしょう。
厚手フリース、薄手ダウンジャケット、厚手セーターなど	中間着として、ジャケットの下に着るもの、2枚程度違う種類を重ね着するのもお勧めです。
厚手シャツ、フリースジャケット	中間着の下に着る、または室内で利用。
インナーウェア 上下	長袖の下着、タイツのようなものが理想的です。乾きやすい綿ではない素材が好ましい。
ウール / 化繊の厚手の靴下	綿の薄手のものをお勧めしておりません。
手袋	中厚、厚手の手袋。
ネックウォーマー / マフラー	首周りの保温はとても大切です。
ヘッドランプ	懐中電灯でも対応可能ですが、両手の中になるヘッドランプがお勧めです。
あると重宝するもの（必須ではない）	
スキーパンツ、オーバーパンツ	綿入りで暖かく、表面が風を通さない素材。
目だし帽	冷え込んだ場合役に立ちます。
薄手手袋	上記の中・厚手の手袋と併用もお勧めです。
カイロ	寒がりの方はお持ちください。

※中間着やインナー類は、乾きやすい化繊やウール混合などの機能素材がお勧めです。